【質疑応答要旨】

【記　者】　おくやみコーナーの設置は県内でどれだけ先進的なのか。また、１日１回ここに行けば、全ての手続きがその場で終わるのか。さらに、死亡に関わる市役所内の手続きは従来どれだけ煩雑だったのか。最後に、市長はおくやみコーナー開設に関してどのような思いを持っているか。

【　市　】　県内のおくやみコーナーの設置状況は、職員が各市町村のホームページを調査したところ、県内では豊橋市、西尾市で設置されていることを確認している。手続きは、事前に予約のうえ１日で終わらせる予定。以前どれほど時間がかかっていたかは分らないが、遺族の方が関係部署を回っていたのが、１日１カ所で済むので、利便性の向上が図れるようになる。

（市長）わかりやすく便利にということが、これによって図れると思う。13課、約50種類の手続きが必要。ご家族、あるいはご親族が亡くなられて非常に心労があり、お疲れのところで、こういった手続きについても非常に大変。遺族の心情に寄り添って、できるだけ負担にならないようにしたい。

【記　者】　おくやみコーナーは常設か。また、１日５世帯が対象という認識でよいか。また、おくやみハンドブック、お客様シートというのはどういうものか。

【　市　】　おくやみコーナーは、通常の開庁日に常設する。基本的に５世帯分の方を受け付ける。おくやみハンドブック、お客様シートは、まだ案の段階だが、市の受付電話番号や持ち物を記載し、必要な手続きのチェック欄を設ける。そのほか、運転免許証の返還や自動車の名義変更など、市役所以外の手続きや連絡先も載せる。

お客様シートは、亡くなった方や遺族の個人情報、葬祭費の振込先などを事前に書いていただき、当日の手続きを円滑に進めるための書類である。

【記　者】　コロナの影響で経営に苦しむ病院が全国的に多い中、市民病院の経営状況はどうか。また、病院を救うために９月予算補正に関連予算を計上している自治体もあるが、市としてどう考えるか。

【　市　】　収益が悪化しているというのは全国と同様。建て替えに多額の費用を要したため、一旦赤字に転落をしている。今後、機器や設備を５～６年で減価償却をしていき、６年後ぐらいに黒字化という計画で動いていた。経営的には順調に来ていたが、見通しがコロナの影響で立ちにくくなっている。ただし他の病院はもっと落ち込みが激しく、市民病院はそこまで落ち込んでいないとも聞いている。現状、９月補正で補正予算を組んで病院の経営を支援するということには至っていない。経営に関する詳細な数字は、必要なら市民病院が回答する。

【記　者】　就労支援センターは、普通のハローワークとどう違うのか。

【　市　】　現在、名鉄小牧駅にある小牧市ふるさとハローワークの業務が令和３年３月末で終了することになり、その代替施設として東庁舎の１階に移転を検討している。求人情報を検索するためインターネットを利用でき、就労について相談を受ける業務を行う。４月に業務を開始する予定。